

令和2年度2学期始業式校長式辞（令和2年8月17日リモートで実施）

今日から令和2年度の2学期が始まります。短い夏休みでした。皆さんはどのように過ごしましたか。

私は一つだけすることを決めていました。それは、8月15日の夜にNHKのドラマを見ることです。それは「太陽の子」というタイトルです。第二次世界大戦下、原子爆弾の開発に携わった京都帝国大学物理学研究室の科学者たちの苦悩と青春を描いた群像劇です。やがて映画としても公開される予定です。

作・演出のNHKチーフプロデューサーの黒崎博氏は本校昭和63年の卒業生です。朝の連続テレビ小説「ひよっこ」のチーフ演出としても高名な方です。昨年12月に東京であった、本校の京浜同窓会総会で講演され、私も直接お話をお聞きしました。

そのとき次のように述べられていました。「今どうしてもつくりたい映画があってその準備に奔走しています。うまくいなくてジリジリすることもあるけれど、とにかくその作品は絶対完成させていと思っています。」

また、黒崎さんは、京浜同窓会のインタビューの中での「朝日高校の3年間は今の仕事に影響を与えていますか」という質問に対して「岡山城の景色、朝日高の門の横のクスノキの茂っている感じとかそういう一つ一つが作品での大事なイメージをつくるパーツになっている」「朝日高の雨の日、自転車置き場の自転車に濡れたカップがかけてある光景や、そのちょっと何か寂しい感じといったイメージの一つ一つが自分の中に残っていて今につながっていると思います」と答えています。

そして、ドラマ「太陽の子」の中で、戦時下という究極の状況で、主演の一人である有村架純に「ただただ今を一生懸命生きている」「進まなければ何も始まらない。未来の話をするために」と語らせています。

本校においても、新型コロナウイルス禍というピンチの中で、前に進むために、このリモートによる始業式や生徒会を中心とした中学生向けの学校紹介動画のホームページ作成と公開など新しい取組を進めています。

ここで、皆さんに2学期に期待することを述べます。1学期の終業式で述べたことと同様のことです。

- ①自分自身を大切にしてください。自分自身を大切にすること、黒崎さんのように自分自身の感じ方や一つ一つの自分の体験や実感を大切にすることが、「自重互敬」につながると考えます。
- ②コロナ感染症の流行があろうとなかろうと、その時々々の制限された条

件の中で友人と切磋琢磨しつつ、広い視野に立った真の学力や人間力を身に付けることを目指すべきです。これこそが「自主自律」と考えます。

- ③朝日祭をはじめ高校生としての当たり前を諦めないために、引き続き新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しましょう。もちろん、偏見や差別につながる行為は、インターネット上も含めて絶対にしてはなりません。

最後に、自分ひとりで行き詰まらないための方策の一つを紹介します。それは、本校同窓会及び本校京浜同窓会のそれぞれのホームページを見ることです。そこには、この朝日で学んだ先輩たちの世代を超えた、時代を超えた、職業人として、人間としての悩みや希望が語られているページがあります。このことは、京浜同窓会長大前孝雄氏（昭和43年卒、元三井物産副社長）からも推薦の手紙をいただいています。

2学期の、皆さん一人ひとりの成長を期待しています。

（県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣）